

参議院選挙の結果について

7月10日に投開票された参議院選挙は、安倍首相が「憲法問題」を語らず、消費税増税を延期したことによる「アベノミクスへの期待感と増税先送りの安心感」が、国民の支持を集めました。そして、憲法改悪をめざす自民・公明・おおさか維新・日本のこころ四党などは、国会での憲法改悪発議を行える3分の2を超える議席を獲得するという結果になりました。

しかし、一方で今回の参議院選挙は、日本の憲政史上初の「野党共闘」が成立し、立憲主義を守るという大きな目標と保育士・介護職員の不足や労働法制問題など職場の具体的な要求にもとづく政策協定が結ばれ、自公などと論争するという状況を作り出しました。この「野党共闘」は、昨年からの青年や女性、市民団体や労働組合の地域と職場の声によって成立したものです。地域と職場の声で政治を動かすという経験を持った私たちの歩みは誰も止めることができません。こうした運動の力により、TPP・大震災・原発・基地問題が争点となった岩手、山形、宮城、福島、沖縄などで「野党共闘」の候補が勝利するという成果を獲得しました。

昨年から大きく広がり始めた「民主主義ってなんだ」「立憲主義を尊重する政治を」「社会保障を守れ」「平和的外交を」という声は、まだまだ政治の流れを動かすには至っていないかもしれませんが、この動きは、さらに大きく、強くなるでしょう。

憲法、原発、基地、消費税はじめ、架空とも言える危うい日本経済の状況は、今後も安倍内閣の元でいっそう深刻になっていきます。

こうした状況の中で、いのち・暮らし・雇用を守ること、とりわけ、医療・保育・介護・福祉・年金など、社会保障の改悪を止める、改善させることは待ったなしの課題です。

いのちと暮らし、雇用を守り、憲法と立憲主義を守る運動の中心は、私たちの職場と地域に移りました。今回の選挙の課題を明らかにするとともに、国民が求める「安心して暮らせる社会と職場」をつくるために立ち上がりましょう。力をあわせましょう！

2016年7月11日

全国福祉保育労働組合京都地方本部
執行委員長 前田 鉄雄

京都医療労働組合連合会
執行委員長 松本 隆浩